

## 米国医学図書館協会の年次総会における継続教育コースの変遷

鹿内 祐樹

近年、保健医療関連分野における専門的な知識及び技術の拡大は著しく、それ故こうした分野に従事している人々にとって、職務上知っておかなければならない情報を頻繁に更新しなければならない状況となっている。「根拠に基づいた医療」などの提示などで、保険医療関連分野の先端に行く米国では、米国医学図書館協会が中心となって医学図書館員の保健医療関連分野に関する知識・スキルの養成が図られている。

については、本研究においては、米国医学図書館協会が年次総会において1958年以降行っている継続教育コースで提供される科目の変遷を追うことで、米国の医学図書館員が獲得しようとしていた知識やスキルの変遷を明らかにすることを目的とした。分析においては、米国医学図書館協会が毎年発行している年次総会報告書から、継続教育コースに関する記述を抽出し、1958年から2012年までの各年度で提供された科目を収集・整理し、本研究において作成したカテゴリを用いて分類を行った。

そして、年度ごとに提供された科目数の推移の特徴から時期を5つに区分し、それぞれの期間で考察を行った。その結果、米国の医学図書館員の獲得しようとしていた知識・スキルは、図書館学をベースにした基礎的なものから、医療の支援を中心とした情報専門職としてのものへと変化していた。なお本研究より、継続教育コース及び医学図書館員の知識・スキルにとりわけ大きな影響を与えたものとして、1982年のサケットらによる「根拠に基づいた医療」の提唱が考えられる。医学図書館界への導入は後年になったが、この概念によって医学図書館員の知識・スキルが医療の現場へと提供される情報を以前にまして意識したものへと変化した。

最後に、2007年に米国医学図書館協会が「医学図書館員の専門的職能」を新たに発表し、さらに継続教育情報センターを設置したことで今後さらなる同協会の行う継続教育事業の拡大が予想される。

(指導教員 溝上智恵子)